

第10期 松戸市緑推進委員会

第4回委員会

1. 日時 平成30年12月21日(金) 10:00～12:00

2. 場所 松戸市役所 市民サロン (新館5階)

3. 出席者

○緑推進委員

柳井重人・平岡 考・木下 剛・小谷幸司・高橋 清・高橋盛男

石川静枝・上野義介・高橋 節・藤田 隆・横山 元

○松戸市

福田勝彦 (街づくり部長)

田辺久人 (公園緑地課長)

米澤和宏 (みどりと花の基金事務局長)

布施 優 (21世紀の森と広場管理事務所長)

竹内茂樹 (公園緑地課補佐)

○兼事務局(みどりと花の課)

岸 秀一(課長)・三末容央(専門監)・稲吉かなえ(主査)・和宇慶さやか(主任技師)

○LAU 公共施設研究所(松戸市緑の基本計画策定委託受託者)

牧野・吉岡

○傍聴 なし

※ 事務局より本委員会の成立について、委員14名中11名の出席により成立している旨報告あり。

4. 議事次第

1 開会

1 議事

1) 前回委員会の議事要録の確認について

2) 緑の基本計画策定について

3) その他

1 連絡事項等

1 閉会

■ 議事

議事1) 前回委員会の議事要録の確認について

会長

事務局から事前に送付した議事要録に修正事項等あるか。

無ければ議事要録として承認するか。

— 承認 —

議事 2) 緑の基本計画策定について

事務局

緑の基本計画の策定について、本日は大きく 3 つの事項についてご意見をいただきたい。

資料 1 H30 年度策定スケジュール（案）の 12/21 の欄に 3 つの事項を書いています

1. 現地視察の振りかえり

11/16 に第 3 回の委員会として実施した現地視察における委員の感想等、またみどりの市民力も含めた松戸市の緑の資源の再評価、課題等についての意見をいただきたい。**資料 2**として「当日の画像」を配布している。

2. 「(仮称) みどりのサロン部会」からの報告

第 2 回の委員会において、市民アンケート以外にも、特に緑の市民活動団体や子育て関係の団体等、緑との関わりがある市民の意見をどのように聴くかの検討や、それを目的とした場のセッティング等の運営を行う部会となる「(仮称) みどりのサロン部会」の設置の承認をいただいたが、本日までに 2 回の会議を実施し、**資料 3**として「部会の報告書」を配布している。

3. 「計画の方向性」

今後、「基本計画の骨子」を 3 月までにまとめるにあたり、それに向けた議論をお願いしたい。第 2 回の委員会において「みどりと暮らす豊かさ」の具体的イメージについて委員の話をいただいたが、本日も、この「みどりと暮らす豊かさ」のイメージについて話をいただきたい。こちらについては、**資料 4** **資料 5** **資料 6**を参考資料として配布している。

ここでのイメージを念頭に、残りの時間を使い、3 月までにまとめていく「計画の骨子」の検討のための資料として、**資料 7** **資料 8**を用意した。

会長

資料 1 のスケジュール表では 3 月の終わりまでに「計画の骨子」をやることになっているが、来年度分のスケジュールはできているか。

事務局

基本計画の策定期間は都市計画マスタープラン等との整合でかなり時間を要することが想定され、策定は再来年の 12 月頃になると見込んでいる。

会長

予定が伸びたのか。

事務局

素案は来年度中につくる予定だが最後の調整部分で時間を要すると思われる。

会長

パブコメにかけるのか。

事務局

素案確定後にパブコメにかける。

会長

素案が変更される可能性はあるのか。

事務局

修正程度はあり得る。なるべく変更が生じないように内容を詰めておかなければならないと思っている。

会長

次回にはその次からのスケジュールを提示して欲しい。

フィジカルな分析は来年のスケジュールとなるのか。現在、市民意見他いろいろな意見を聴い

ているが、独自の持っているグリーンインフラに関わるような評価、空間的評価も必要ではないのか。

事務局

評価については専門家会議の中で諮り対応を考えていきたい。

会長

個人的な感想では、前回の「緑の基本計画」ではそこが少し弱かったので、きちんと分析できると良いと思っている。もしチャンスや時間があれば入れてほしい。専門家会議の枠組みで検討したい。

1. 現地視察の振りかえり

会長

コース設定については高橋盛男委員の提案もあったと聞いている。

「坂川親水広場→矢切斜面林・農地→国分川多自然型護岸整備と桜並木→市民農園→生産緑地→街路樹→金ケ作公園→常盤平さくら通り→ひまわり公園→囲いやまの森→育苗圃→金ケ作野中の森」というバラエティーに富んだ行程を半日をかけて視察をしたが、意見等はないか。

委員

変化に富んだみどりだったが、印象的だったのは生産緑地で生産したものが自家販売されており、都市においてはこのようなことも可能なのと感じた。

会長

生産緑地法の改正により、農家レストランなどやり易くなった。前回、委員から豊かさの中には食や農が入ってくるという意見があったが、生産緑地をどうするかは大きな問題となるだろう。

委員

国分川に行ったが、自身も近所に住まいがあり、妻は毎日、私は毎週川沿いを歩いている。歩いている人は非常に多いが、休憩スペースはほとんどない。高杯橋のたもとにベンチが2基設置されているだけで、他には市民が自前で作った木製のベンチを置いているが、壊されたり、動かされたりする。休憩したい人のニーズは高い。当初松戸を歩ける場所にしたいという提案をしたが、国分川沿いは歩いて非常に気持ちの良いところで、ちょっと足を延ばせば市川市の国分川調整池や、さらに下流は多自然型護岸の整備が進んでいる。そのような可能性を考えると快適に歩ける環境をきちっと整えることが大事で、散歩マップ等をつくり PR をしていけると良い。

会長

この場所は車で通るが、多くの人が歩いている。健康づくりとなると公園の中の健康遊具という話にもなるが、安心して歩けるところがたくさんあるということは健康づくりにプラスになる。江戸川堤防を歩く人も多くニーズは高い。

委員

国分川 1.5km では、平成 8 年から「河南環境美化の会」が地域の人と共に清掃活動を年 2 回行っている。これまで平成 17 年から 5 年間に 78 本桜の植樹を行い、地域の子どものいろいろなイベントを行ってきた。川沿いの歩道は舗装整備がなされ多くの人が健康維持のために散歩しているが、非常に多くのごみ(1~1.5t)が投棄されており、近くの河原塚中学校の生徒と共に清掃活動を行っている。また休憩用のベンチを2度つくったが持ち去られ、モラルの問題もある。今後も気長にコツコツと頑張っていきたい。

委員

川の両側の道路は河川管理用で構造物は置けないことになっている。何とかならないか。導水の合流点に1か所休憩スポットがあるが、再発見ツアーでも歩いたが日差しを避ける場所もなく困った。良いコースであるのに苦行コースとなる。

矢切の物流センターの計画は困ったもの。矢切の渡しの近くに都市公園の計画があるが、場所が悪いのではないか。

矢切の河川空間は全てゴルフ場になっているが、この場所が公園であればいいと思っている。緑政としては、ちぐはぐな感じがする。

会長

今の説明のように、矢切地区についてはいろいろな計画があるようだが、うまくやれば可能性があるという言い方もできる。松戸のシンボルとして大切だと言い続け守ってきた矢切の斜面林だが、今後矢切地区をどう捉えるか、注視していかなければならない。

都市農地については、「緑の基本計画」の緑地の定義に農地が含まれたこともあり、整理を要する。

委員

坂川親水広場と金ヶ作公園のリニューアルについて、坂川では水遊びができるということでアピールしていたが、利用者側からは何もなく利用しにくい。飲み物を買うところもない。またその後の様子が市民に伝わってきていない。当初聖徳大学の協力がありアピールした時期もあったが、その後どうなっているかの発信が欲しい。

金ヶ作公園は遊具が設置され使いやすくなったという公園のアピールはできているようで、地域の小さな公園でもちょっとした変化を地域の人に知らせることができれば、子育て中の人や健康づくりなど、利用者の関心に繋がる。リニューアルの広報はきっかけになる。

委員

感想として、初めて緑推進委員になり、市内を巡った時と比べると松戸全体がきれいになり、気持ちよく歩ける松戸になったと感じた。育苗圃は一生懸命作業されてきれいになり、とにかく松戸全体が変わった印象だった。

委員

当日参加できなかったが、育苗圃には注目している。東京三多摩地域は都市農業の一環として、緑化樹木の生産を行っているが、確か15、6年位前には全国で生産高が一位だったが現在は三重県が一位になっている。こういった調査をしていたが、今は樹木の入手をホームセンターで購入することが多く、買って植えても枯れてしまうことが多い。公園でプロの管理により育てられた良い樹木を園内のカフェで見ながら購入できれば良いと若い農家と話した。このような利用の仕方が将来の可能性としてあるのか、個人的ではあるが、今後規模や生産している樹木の情報を教えてほしい。

事務局

現在は1か所の育苗圃もかつては市内8か所にあった。松戸はかつてユーカーリを広めた時期があり、生産も行ってた時期もあった。今は主に草花の生産を行っている。育苗圃の活用も大きな課題なので是非意見をいただきたい。

会長

松戸では農地というとネギ畑をイメージするが、梨園が多いのも特徴であり、観光スポットにもなっているので面白い提案ができればいい。

委員

ひまわり公園での話のように、花壇づくりは花づくりだけが目的ではなく、外出しなくなった近所のお年寄りのコミュニティの場にする狙いもあった。里やまボランティアでチェンソーを使って管理している森が子供の遊び場になったり、クロスオーバーしている考え方。

会長

花を美しく咲かせることが目的の場所もあるが、コミュニティのきっかけにしたいということもある。

委員

ひまわり公園の花壇づくりでは、公園に近所の人が責任感をもって通ってきている場所であることが大切。金ケ作公園の写真をみると、見通しの悪い公園は怖いという理由でドウダンツツジのような低いものと高木の構成になっていて鳥はあまり喜ばない。鳥のことだけを考えれば神社のような暗いところがある茂った森を好む。神社には宗教的な場所であることや人がいるところが多く、茂みがあっても安心だと考えられる。花壇も一日中ではなくとも人が毎日責任を受け持つ場所があるのはコミュニティ的にも大切で、鳥の話とは直接は結びつかないが、行政では手が届かないが地域の人が気にして通ってくるのは大切。

会長

例えばプレーパークでは、普通の公園ではできないセッティングをだれかが見守ってくれることでできる場所になる。そういうことがうまくかみ合うとできるようになる。囲いやまの森でもオープンフォレストに行くと冒険遊びのような木登りをしている。責任をもって見守る人がいるからこそできることだと思う。鳥の観察も同様で、21世紀の森と広場のサンクチュアリーには限られた時間ではあるが指導員がいて観察ができる。責任を持って見守れる担い手をどうするかも重要なこと。

委員

里やま応援団が活動しているホダシの森では「ひなたぼっこ」というグループホームがあり、最初はそこでトイレを借りていただけだったが、そのうちお年寄りを連れ出して遊んでもらうようになった。例えば育苗圃やゆいの花公園、金ケ作公園の周辺にも老人施設があるが、市内にはこうした場所が多くある。緑をお年寄りや認知症の方にも利用してもらえていいと思う。

会長

緑地もユニバーサル、ノーマライゼーションの方向になってきた。

委員

里やま活動で子どもたちが遊ぶ姿を見て思ったことだが、プレイパークが全国で300位あるようだが、なぜ松戸にはできないのか。

公園緑地課

プレイパークとしては「冒険遊び場」の事業を行っている団体が毎月第4土曜日に金ケ作自然公園で行っているが定期的ではない。都内には常設のプレイパークがあるようだが、松戸市には無い。特に行政でそれを抑制しているわけではない。

2. みどりのサロン部会からの報告**会長**

市民アンケートを行っているが、部会ではそれとは別に実際に活動している人、また緑と関わる活動している人の意見を集めるために立ち上げた。アンケートは3,000枚配布し約750枚戻ってきている。これは100回同様のアンケートを行った場合に95回は±約5%の誤差に収まる

精度のもので、1 月に分析結果を報告できると思う。

事務局

委員会でのみどりのサロン部会立上げの承認の後、今日までに 2 回会議を行った。その報告が **資料 3** となっている。1 回目を 11 月 30 日に開催し、6 名の委員に出席いただいた。

部会の目的は「里山や花壇など、みどりの活動をしている団体」や「みどり・公園を利用している子育て関係の団体」等からの意見を聞くこととなっているが、普通に意見を聞けば、ただ「もっと活動資金を支援してほしい」とか「配布する苗を増やしてほしい」というような想定できる意見になってしまうので、自分たちの活動やフィールドを外から見るという視点を持つとか、これからの緑との接し方やネットワークの可能性を探りたいという考えの中、団体にアンケートを実施しようということになった。

第 2 回は 12 月 14 日に行ない、それぞれ団体ごとにどんな質問をするかワークショップ形式で考えた。内容は **資料 3** の下のグレーの網掛けの部分。アンケートはできるだけ早い時期に実施して、アンケートの結果を踏まえ、直接団体の皆さんにヒアリングをするのか、またはサロンの集まりを開き意見交換をするのか考えることになった。

今後おおよそ月 1 回の会議を行い、アンケートの実施とサロン等の開催を行い、6 月には団体等からの意見を取りまとめたいと考えている。

委員

本来はプレアンケートの実施の後に本番を行う計画をしたが、時間がかかりすぎることから直接本番を行うことにした。基本的には意識を問うもので、戻ってきた回答から統計的な結果を求めるアンケートというより、次の段階のアプローチを求めるためのアンケートを行う考え方。自分が関わっているところ以外（公園清掃団体などや公園と連携する協議会）はなかなか分からないので設問のつくり方に迷ったところもあるが、今後さらに検討していくための意見をいただきたい。

会長

これはアンケート票をつくって配るのか。

委員

そう考えている。先行してネットワークの中核である里やま応援団に、さらに花壇づくりと公園清掃は今年度末に考えている。

会長

公園清掃は何団体あるのか。

公園緑地課

現在 117 団体ぐらいだったと思う。

委員

統計的な処理のためのアンケートとは設問の中身が多少ずれるが、逆にそれで良いかと思う。緑との関係がどの濃度までとするかは、公園や緑地に直接関わっているところの視点でもう少しシェイプアップして来月くらいまでにつくり込む。

委員

町会等は緑との関係が薄く難しいと思うが、見守りボランティアの視点はあるのか。また企業が緑に対してどう思っているかというのも知りたいが、そこまで望むのは難しいのか。

委員

市内でも地域の清掃や緑の保全に取り組んでいる会社はある。

委員

八ヶ崎の子安神社はとてもきれいにしているので回答するのではないかな。神社の氏子やお寺なら返ってくるのではないかな。

会長

対象に是非入れてほしいところとして、千葉大学の「戸定が丘周辺で活動しているみどりの回廊グループ」、「コミュニティーガーデン戸定みんなの庭」、「援農ボランティアを行っている園芸学科の学生を中心とするグループ」「公共サイン研究会の学生グループ」「訪問園芸として環境教育を視野に入れ、庭の草取りを行っているグループ」「エディブルウェイ」などの 5 つ 6 つの学生グループが 1,2 年前からネットワークを組んで学生ならではの発想を持って一生懸命活動しているので、できれば考えを聞いて欲しい。また企業については基金の賛助会員はみどりに対してお金を出しているが、働きかけができるかどうか。

松戸みどりと花の基金

賛助会員は昨年度で法人等の団体が約 100 強、個人で約 300 強の会員がいる。加入者には機関誌の発送と緑と花のフェスティバル等のイベントの案内をし、加入者には花の種とキーホルダーを進呈している。法人会員は主に工場関係となるが、工場緑化として年 2 回花を提供している。他にも寄付をいただいている企業、募金箱を置いてもらっている企業もある。

会長

企業にいきなり訪問することはハードルが高いが、サポートしてくれる企業にみどりと花の基金を通してアプローチする方法はある。

委員

CSR = ボランティア ではないが、そういう観点で企業・事業者がみどりを守ることに對しどのような意識を持っているかをアンケートで調べ、できれば公開し他の企業に見える形で周知できると良い。大事なことなので企業に対してもアンケートを行って欲しい。

委員

非常に貴重な指摘で、地方の中間支援組織は企業と一般のボランティア活動を結びつけるためにお互いに勉強会を行った。インターフェースが無いのが大きな課題と感じている。ただしアプローチの仕方・聞き方が難しく、現段階では入っていない。

会長

企業との連携では松戸は未だ目に見える成果が無いと感じる。イベントのサポートは得られているが、企業と共同で何か行ったという事例が見られない。例えば北総線の秋山駅の鉄道敷きの上部の空地利用の新しい試みを考えているが、企業の考え方を聴くチャンスはある。工場緑化の審査や認証評価の評価員を行っているが、建物のセキュリティーの課題がクリアになれば、また誰かが付いていれば、工場緑地の公開は一般的になってきている。現在は企業が緑地をつくりオープンにすることはできるので新しい提案ができればよい。これまで松戸市の市民力には企業が欠けていたがサロン部会で意見を聴いて欲しい。

委員

検討する。団体によっては直接話を聞く方法も考える。

委員

流通経済大学は入っているか。

委員

環境系はあるが、みどりで聞いている。

会長

サロンの意義として、アンケート結果を発表する会を開催し、さらに新しい意見をもらう場として、是非アウトプットの場をつくってほしい。かつて「みどりと花の基金」の主催で研究発表会を開催していたが途絶えているので、市民の中でのフォーラムのきっかけとなればいい。

委員

年度内には、投げることを行い、その反応を見ながら行っていく。

発表会は非常に良いアイデアなのでみどりの行動会議を招集したい。最終的には行動会議と行動することにより継続させていくという考え方もある。

会長

了解した。

委員

サロンのアンケートについて、これまでの「みどりととの接点」とこれからの「みどりととの接点」を探っていくことに関わる設問、例えば **資料3** に「異なるジャンルの活動団体との連携はあるか」の設問があるが、これは大事なことで、例えば商店街や地域の産業のようなものとみどりや公園との関わりをどのような聴き方で導くのか。意向のようなものが出てくると思う。

委員

NPO 法人の下層ジャンル分けでは17ジャンル位あるが、それに地域や管理企業を加えていく選択肢。意図は、テーマ型ネットワークはすぐにできるがそれを串刺しにする形にするものが無い。里やま活動における活動団体と地域の保育園や放課後児童クラブとの関わりや近隣の高齢者施設との関わりを見ていくと、現在はイベント的だが恒常化しているところもあり、事例として提示できればおもしろい。

資料3 の「みどりの活動の連携を図る支援組織は必要か」の設問は質問の仕方を考えなければならぬ。ネットワークをどう回していくのか、それを考えているのかだけを見たい。まだ具体的なイメージまでは聞けない。

会長

委員は、違う接点、違うテーマ、周辺や関連するテーマとの接点をどうつくっていくかについて、長年言ってきた。

「みどりと暮らす豊かさ」の議論の中でも、他の分野においてみどりとどう関わっていくか。社会課題や地域課題のような都市のもっている課題をより良くしていく上で「みどり」がどう役立つか。ただ「みどり」を保全するだけでなく、接点が問われてくるのではないか。社会性を持つことが大事なこと。

委員

現在委員も関わっているが、市内12地区の地域フォーラムで、地域交流や他ジャンル、多年層の交流の場や機会をつくっていかうとしている。自立的なケアを地域でしていく方向性になっている。

委員

共生社会の視点ではじめています。街を歩くことや公園を土台とするイベントが多い。

3. 計画の方向性

会長

資料4 は「みどりと暮らす豊かさ」の具体的なイメージを例示している。「みどりと暮らす豊かさ」は市民憲章の冒頭に書かれており、「緑の基本計画」を貫く基本的理念として「みどりと暮らす豊かさ」とは何か、それを実現させていくために「緑の基本計画」策定するのであり、ど

のようなものを目指せばよいのかについての意見をいただきたい。

資料 5 は岡山市の田園都市推進課が、子育てと遊びの NPO 法人と協働で「外遊びノート」としてつくったもの。直接議論に関係はないが、発想の参考にしてほしい。

LAU 公共施設研究所

新しい「緑の基本計画」では「オープンスペースの利用・活用」が大きなテーマとして考えられることから、緑推進委員会でのこれまでの意見を踏まえて **資料 6** を作成した。

第 9 期緑推進委員会では、中からの目線だけに依らず、街づくりの目線、みどりを使う人の目線が必要であるという意見があった。PR が必要で最終的にファンになってもらうにはどうするか。「みどり」がライフスタイルに溶け込んでいるような文化を育てることが必要。地域の課題に対する解決に結びつける。住む、遊ぶ、働く上で選ばれる都市となる。また、「みどりの市民憲章」の大きな 3 つの柱を踏まえると、活動する側だけでなく、一般市民もみどりと暮らす豊かさが実感できるようにし、それぞれのみどりの場所で気兼ねなく活動できる場所が松戸にある、いろいろなやりたいことができる場所が松戸にある、そのような場所をつくっていく方向性が考えられる。一般の活動者だけでなく多くの市民ができるようにするという考え方。これまでは各フィールドやジャンルがはっきりして、それぞれに市民の活動があり、それぞれのジャンルの課題を解決していくことが方向性としてあった。例えば、里やまであれば、1 つは里山の多様な活用とそのため仕組みづくりがそれぞれのテーブルの上であって、それぞれの課題を解決していく方向性があった。

それぞれの活動の継続性やネットワークがもう一つの方向性。また、これまであまり考えてこなかった「空き地や未利用地」があるが、市民や子どもや様々な団体の活用の要求を受けとめるスペースをつくっていくことが考えられる。オープンスペースは単独でもあるいは別のみどりのフィールドと関連しての利用も考えられる。いろいろな空間と活動者が繋がって多様な利用ができるという考え方もできる。また企業の緑地を確保するための仕組みを含めて広い視野での発想も無理ではない。

事務局

資料 7 はオープンスペースを公園や里山、河川等の場ごとに分類して、それぞれに今までに何が行われ、どんな「みどりの市民力」が関わってきたのか、または今後どんなことができるのかを、あくまでたたき台として書き込んだ。赤字で書かれた部分はこれまで松戸市ではあまり取り組んでこなかった部分や法改正により可能になった部分をわかるようにしてある。

資料 8 は、**資料 7** を LAU 公共施設研究所が体系化してくれたものであり、「計画の骨子」をイメージできるように作成した資料。

会長

資料 8 は今後議論するもので、このようなことを 3 月までに検討することになる。

資料 4 **資料 6** について先程来連携やテーマとの関係が必要との議論があったが、活動者目線だけでなく利用者目線においても成り立つのかどうかの意見・感想をいただきたい。

事務局

資料 4 について補足する。

画像は人がどのようにみどりと接しているのかわかるように、人が多く映っているものを選び載せた。

1 段目：左から 21 世紀の森と広場自然生態園、21 世紀の森と広場自然観察舎、戸定邸（再発見ツアー）、オープンフォレスト 1、オープンフォレスト 2

2 段目：左から モリヒロフェスタ（落ち葉のプール）、21 世紀の森と広場（森のこども館）、オ

ープンフォレスト（保育園児）、21世紀の森と広場（脱穀）

3段目：左から 根木内歴史公園（田植え）、市民農園、オープンフォレスト（パネル）、オープンフォレスト（今年度ポスター）

4段目：左から 庁舎前花壇（花壇づくりネットワーク）、ひまわり公園活動（研修会）、庁舎前花壇

5段目：左から H29 年度緑と花のフェスティバル、21世紀の森と広場（ドコでもシアター）、モリヒロフェスタ（テルさんの紙芝居）、囲いやま森の音楽会

6段目：左から モリヒロフェスタ（ラグビー）、21世紀の森と広場（幼稚園遠足お弁当）、公園を利用したピクニックの提案、馬橋駅前ロータリー（桜）、21世紀の森と広場（紅葉）

会長

資料では可視化できる部分だけだが、これ以外にも豊かさはある。**資料4** みどりと暮らす豊かさのイメージ、あるいは**資料6** オープンスペースの利用・活用について意見や感想はないか。

委員

資料4 先の説明に次の時代のみどりの市民力を考えた時、多様な主体の連携があるが、入口で必要なことは同じ共通の問題意識を持った仲間がいるか、共に行動できる仲間がいるか、できるかのレベルの文言が必要だと思う。

会長

イメージとなると難しいが、多様な交流が生まれているというより、みどりを通じた仲間がいることが豊かさのイメージで、仲間がいる状況にしていくためにそのために花壇づくりがある。方法と最終形が混ざって書かれている。

委員

例えば里やま入門講座では「仲間づくり」がキーワードになる。ネットワークづくりや地域活動の再生を考えた時も同様。

委員

資料4と**資料6**の「緑の基本計画」における位置づけの説明がほしい。

事務局

資料4 は緑の基本計画策定において、今回の「みどりの市民憲章」にある「みどりと暮らす豊かさ」を将来像としてイメージできるようにしたいということで作ったもの。

資料6 は先に話したとおり、オープンスペースがテーマになると考え、オープンスペースと人が現状でどこでどのように接しているかをわかるようにしたもの。

委員

これは意味ではなくメッセージ。これを実現するための計画的な下地のイメージ。

委員

資料4 をメッセージとして位置づけるのであれば、先ほどの意見のように手段と結果が混ざっている。わかりやすくアウトカムだけにして、例えば「緑が環境を守り」は除き、「緑が環境への負荷を緩和している」と一行で表現しメッセージ化した方が意志が伝わる。

会長

一市民の目線として、「みどりの景観が形成されている」ではなく、私は「松戸らしさを感じる」の目線が欲しい。

委員

この文言はアウトプットするときも例示として出すと思う。メッセージとして展開していく流れになっていく。

委員

プランニングなので、シンプルにキャッチーとして一行くらいが良い。

会長

資料 6 は市民力の活動の整理をしている。「松戸みどりの市民憲章」は、これまで扱いがはっきりしなかったが、松戸市民が緑において目指す一番上位の概念の中で「みどりと暮らす豊かさ」をもっとも重要と捉えていくとすれば、「緑の基本計画」の最重要の理念となる。

また、これまで松戸では公園や里やまが中心の場所となっていたが、他にも具体的なフィールドとして農地や公共空間や住宅団地、企業緑地があり、少しずつ動いている活動もある。これに加え空き地や未利用地のオープンスペースをパブリック化しようというイメージが表現されていて、これを具体化していく。これは「緑の基本計画」のどこにではなく議論のための資料。この資料を見た感覚的な意見をいただきたい。

委員

資料 4 「みどりと暮らす豊かさ」の具体的なイメージは「緑のメリット」のようなはっきりとしたことでなく難しい。常々子供のコメ作りの原体験の必要性を言っているが、米は精米されてスーパーで袋に入って並んでいるのではなく、田んぼでつくられ、たくさんの工程やきれいな水も必要ということや、トンボのような生物がいる自然の中で遊ぶ原体験を次の世代に残すというようなはっきりとした表現の方が「環境学習」や「安心・安全な農作物を食べることができる」の文言より良い。

委員

今の意見に賛成。松戸の子どもたちと観察会を行ったとき、子どもたちは刈取りを終えた田んぼに落ちていた米の籾殻を剥いたものが、普段食べているごはんだということに結びつかないことに驚いた。都内の子どもも同様だったが、近くに 21 世紀の森と広場があるから良いのではなく、もっと積極的に伝えることが必要だと痛感した。虫のことを知っていても米のことは知らない。

委員

資料 4 に「命の繋がり」というようなガツンと来るような言葉を入れられないか。

委員

資料 6 は、おおよその構成要素は載っているがオープンスペースのような公共空間の概念の線引きをどこにするのかの表現があって良い。例えば「緑の景観において個人宅の庭に公共性はあるのか」や、里やまボランティア入門講座における会長の講義資料に「民有地の里山が公開されることによってパブリックスペースの要素を強めていく」とあったが、公共の概念を盛り込みたい。

会長

資料 6 の公共空間は公有地のイメージが強い。民有地における公共性が重要かも知れない。

委員

オープンスペース（公共用地）はみんなのものと考えているが、国の所有する管理地という考え方も多く、相違がある。

会長

里やまボランティア活動について、今の「緑の基本計画」に、「荒れた樹林地にみんなで手を入れて地域の財産になった」というイメージ図がある。地主の土地ではあるが、期間限定で手を入れて楽しめた事例であり重要なこと。企業緑地も公開されればパブリックになっていく。

委員

公と私の境をどう区分けするか、豊かさをメッセージ化、具体の言葉で示さないとどこにもつていきたくないのか見えない。既存の緑のストックをどう活かし、さらにその領域を広げようとする意志が必要。それは市民の能動的意識や包括的にサポートする行政・中間団体がフォーラム構想やマッチング・ミーティングをする場につながる。そこに至るには数値などの機能性の評価が大事で、そこにグリーンのインフラがあることで何を生み出しているのかを発信しないと理解は得られない。そのために豊かさの体系・整理をきちっとしなければならない。

委員

資料 6 企業緑地についてだが、開発における緑化の基準を設けているとは思いますが、自宅近くの生産緑地や保全樹林地区が解除され開発が行われている光景を見る。そこでは最小限程度の緑化はされているものの緑の減少は否めないものがあり、とても残念に感じている。「市民力」において、一方でこれほど高度な市民の活動が行われているのだから、事業者に対しても一定の施策を打ち立てるべきではないか。まだ松戸では開発が続いているが、このタイミングを好機と捉え、開発行為ではより質の高い緑を創出するというような姿勢を「緑の基本計画」で打ち出すべきではないか。これには条例の変更・改正や緑化基準・緑化のガイドライン作成等様々な作業が必要となってくるが、豊かさのイメージをはっきりさせる意味で大切な方法ではないか。

会長

今の提案は条例改正まで視野に入れたものだった。非常に大切なことであり、是非議論の中に入れてほしい。

委員

企業緑地の公開について、開発行為の申請において、例えば緑化計画書の中に公開緑地の考え方も盛り込んだ提案ができる。

事務局

宅地開発については、松戸市でも宅地開発事業等に関する条例の中で、事業者に対し一定の緑地の確保について指導・審査は行っている。より質の高いものをという提案か。

委員

できあがったものを見ると緑化に対する姿勢が感じられない。これほどしっかりと市民活動が行われている一方で行政側としては新規開発をより良いものに誘導していく施策が必要ではないかと思っている。

会長

同感で、指導をする根拠として「ガイドライン」や「指導の指針」が必要になっていく。時間の都合で今日の議論はこれまでとし、他に意見があれば事務局で受け付ける。

議事 3) その他・連絡事項**事務局**

資料 1 のとおり、今後 3 月までにあと 2 回の委員会を実施する。次回の委員会は 1 月 25 日で、この日は市民アンケートの結果報告、サロン部会の経過報告、できれば「計画の骨子 (案)」の提示をしたい。

市民アンケートについては、市内の 18 歳以上、無作為 3,000 名を対象とし、アンケート用紙を送付し、これまでに約 760 名 (18 日 : 764 名) の回答があった。(回収率 : 約 25.5%)

今年度最後の委員会は 3 月 27 日で、この日に「計画の骨子」についての報告をすることになる。

3 月までの委員会の予定は以上となっているが、柳井会長、木下委員、小谷委員、またサロン

部会に参加いただいている委員の皆さまには、専門家会議や部会で委員会とは別にお時間をいただきたいので、ご協力をよろしく申し上げます。

公園緑地課

■東松戸ゆいの花公園クリスマス会

日時：12月15日（土）

公園内を多くのイルミネーションで飾り、職員がサンタクロースに扮し、2,000人以上入場者を迎えた。イルミネーションはクリスマスイブまで午後7時まで点灯する。

21世紀の森と広場管理事務所

松戸モリヒロフェスタは、21世紀の森と広場の魅力をより多くの人に伝え、さらにファンになってもらうことを目指している。実行委員長は街づくり部長、みどりと花の基金、NPO法人松戸子育てサポートハーモニー、文化振興財団、文化観光課等が参加し実行委員会を結成し、今年度はイベントを年4回開催した。

■まつどモリヒロフェスタ～おいしい・たのしい・おしゃんていー～

11月23日～25日に開催し、平成28年以降3回目となりブランドは次第に周知されてきた。来場者数65,000人。

■松戸モリヒロフェスタ～21世紀の森と広場開園25周年記念イベント～

21世紀の森と広場開園25周年を記念し、通常のもりひろフェスタとは趣を変えトリアルな形で12月16日（日）に開催し、ゆいの花公園のクリスマスコンサートとタイアップする取組も行った。

来場者数はあまり伸びなかったが、入場者100人にアンケート調査を行った結果イベントに対して概ね好意的だった。

松戸みどりと花の基金

第3回緑推進委員会の視察における国分川での説明で、「1月第2週に野鳥観察会の実施を行っている」との案内は、「第3週1月19日土曜日」にお詫びして訂正します。詳細は1月1日広報まつどとHPに掲載する。

松戸市と共催開催の「緑と花のフェスティバル」は平成31年4月29日（月）昭和の日に開催予定なので、委員のご協力をお願いしたい。

事務局

次回の緑推進委員会は来年1月25日（金）10時からとする。

会長

以上で、第4回松戸市緑推進委員会を閉会する。

以上